

欠陥機オスプレイが飛んでくる

高度150メートルの低空飛行訓練を全国6ルートで実施

早ければ7月にもオスプレイ配備

アメリカ政府は、沖縄県の海兵隊普天間基地に、垂直離着陸機オスプレイを配備する計画を進めています。新聞報道によれば、7月中に第1陣の12機を山口県の岩国基地へ搬入して試験飛行を行い、8月には普天間基地へ配備するとのことです。

原因不明の墜落続く

オスプレイは試作段階で4回の墜落事故を起こし、30人の死者を出しています。2007年には部隊配備が始まりましたが、2010年4月、2012年4月、2012年6月と3回墜落し、6人が犠牲になりました。この3回の事故について、アメリカ政府は機体に不具合はないと発表していますが、具体的な墜落原因は不明のままです。また機体に問題が無いとしても、墜落が相次ぐのであれば、危険な航空機であることは間違いありません。

危険な低空飛行訓練を全国で

海兵隊はオスプレイを、山口県の岩国基地や静岡県のカンパ富士に派遣し、そこを拠点に日本各地で低空飛行訓練を行う計画です。

低空飛行訓練は、在日米軍の航空機が行う爆撃訓練の一つです。山間にある学校や病院を仮想の攻撃目標にして、レーダーをかいくぐるために地上150メートルで飛行するのです。この訓練では度々、墜落事故が起きています。

危険なオスプレイが、危険な低空飛行を行えば、いつ事故が起きてもおかしくありません。オスプレイの沖縄への配備と、各地での低空飛行訓練の実施に反対しましょう。

